

千本山

千本山は、やなせ千本針差おとしみやまきびの突のなるころは杉のてんぎよ(70%)で日あしを見るな谷はくらやみ霧の底と唄われ古くから人々に親しまれた名山。高知県東部の最高峰甚吉森から南へ延び、西川と中川に挟まれた長い尾根の末端にあたり太陽光を十分に受ける南斜面であり、日本屈指の夕雨地帯であることから、四国の天然杉分布の中心として知られ、その中でも千本山は「一目千本」といわれる巨木群がどっしりと根をはり、枝を伸ばし、梢が互をつく林内に一歩足を踏み入ると、誰もがその迫りに圧倒される。

魚梁瀬杉は、秋田杉、吉野杉とともに、日本三大葉杉と呼ばれている。

ヤナセスギは、枝が小さくて山肌、かつ層が分けて生え、まっすぐに高くのびる性質をもっている。特に樹齢100年前後の頃にのみ子孫いかにて強い。

樹高40-50m
樹齢20-30年
壮観!!

参考文献
高知の森林
四国百山
高知県の山
わが山たちの足跡

ヤナセスギは高知県の県木でもある(昭和41年9月制定)

森の巨人100選
橋の大杉
樹高54m

17世紀の慶長〜元禄年間の約百年間は朝廷と幕府への貢納木の徴発が厳しく、次々とヤナセスギが指定され、現存している伐採跡地の管理は工作藩の法令「元禄工定目」の中の「山林工定目」により、伐採跡地を管理・保護し、後継樹の育成に努めている。こうして元禄以来、明治4年の「藩置廃止」の約180年間、御留山として厳重に管理された成果として、現在の千本山がある。まさに工作藩林政の賜である。

藩政時代の御留山は、盗伐などの取り締りが厳重であった。当時、各郡に設けた山奉行十のうちの六つ、まとも魚梁瀬に設置し、番人犯は又刑や耳とせいで他国追放などしている。

甚吉森へつづく

甚吉森の山容が、炎く見ゆる。

千本山 1084m ツルシヤミ

スギの語源には「まっすぐな木」であるの、「直木」という説や、「進み続ける木」として「進木」とあるという説もある。

ふかふかした森の間に、足の裏をしっかりと踏む。嫌なと、苛立ち、悲しみ、そんな気持ちを森の立か、口いってくれるような気がする。

天に向かって伸びる杉は美しく、壮観。

特別母樹林

千本山のどのヤナセスギも、東の神社に一本でもあれば、正統な神木クマになることだろう。

風格漂う魚梁瀬美林

まさに林業の聖地

精英樹 特に優良な遺伝子を備えた個体。遺伝登録され、優良な苗木を育てるために種子やさし穂が採取される。林木の工一ト。

以前は精英樹の苗木にローフとくんじを付け、そのと種のおよび登り、苗圃用の樹を採っていた。ローフと木から木へ、空中高く飛ぶ種、高樹は枝は全国に知られていた。

千本山のどこからゴダマちゃんか、ひょうりやうれれ、うな雲風気。

千本山の杉林には、唄にもあるツルシヤミが群生している。晩秋には、真赤な実をつけるが有毒で、葉の中にも持ち込むと、葉に刺さると、口にするとも危険。

木の神 スサノオミコト
日本書紀によると天照大神の弟神スサノヲミコトは、自分の体をも投げ、人間の役に立つ木を作ったと伝わる。

マユモ → 杉
ヒケ → 杉
木の神は、森の神
スサノオミコト

先輩オマの守り育てた千本山に歌花

胸も杉
尻も杉

県道371号 千本山魚梁瀬線 登山口まで舗装

2017.4 この谷の奥ツルシヤミの目撃情報

石仙

